

# 環境共生都市鎌倉は、環境共生や地域とのつながりに優れ、強い自治意識と高いシビックプライドのもとで、リサイクル率全国1位を誇る等市民・自治体共に積極的な環境共生に関する取り組みを行っている

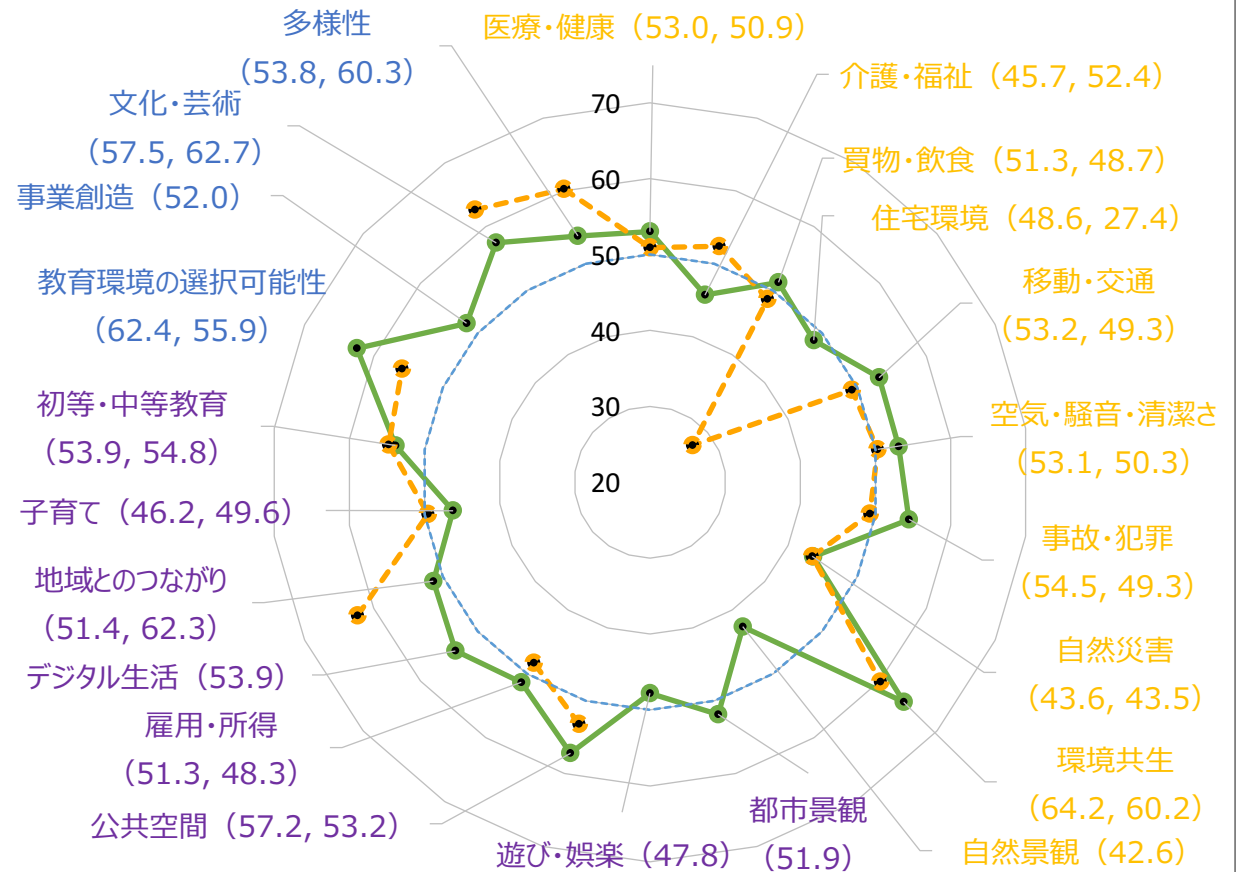
## 概要

人口	約17.3万人	高齢化率	約31%
可住地人口密度	6,450人/km <sup>2</sup>	昼夜間人口比率	97%
都市の特徴・ 周辺地域との関わり	幕府開府以来700年の歴史と、山と海に囲まれた豊かな自然を有する日本屈指の観光都市。一方、自然と文化に惹かれて当地にオフィスを構える企業も多く、新旧が調和して発展している。また、市内に所在する大船駅や国道134号等は湘南地区とそれ以北・以东を結ぶ交通の要衝である。		
将来都市像	古都としての風格を保ちながら、生きる喜びと新しい魅力を創造するまち		

## サマリー

- 全国でも第一位のリサイクル率を誇りSDGs未来都市に採択される等、市民・自治体共に持続可能社会実現に向けて積極的に取り組んでいる。これらの取り組みとその要因分析は、環境共生都市を目指す上での他自治体の参考となりうる
- 持続可能社会実現に関して意識の高い要因として、当地におけるまちへの愛着や市民活動の歴史を背景とする市民の強い自治意識が挙げられる。この自治意識の高さは主観調査結果や自治会・町内会への加入率に現れており、古都鎌倉ならではの高いシビックプライドがその源泉にあると推察される。
- 市民の自治意識やシビックプライドは、市民の居住年数や地縁の度合いによってその源泉の異なる可能性があり、このことが市内5地区がそれぞれ独自の生活スタイルを持っている要因と推察される。
- 環境共生以外にも高等教育や移動・交通、地域とのつながり等長所が多い。一方、地価の高さや自然災害について懸念の声がある



## カテゴリー別指数

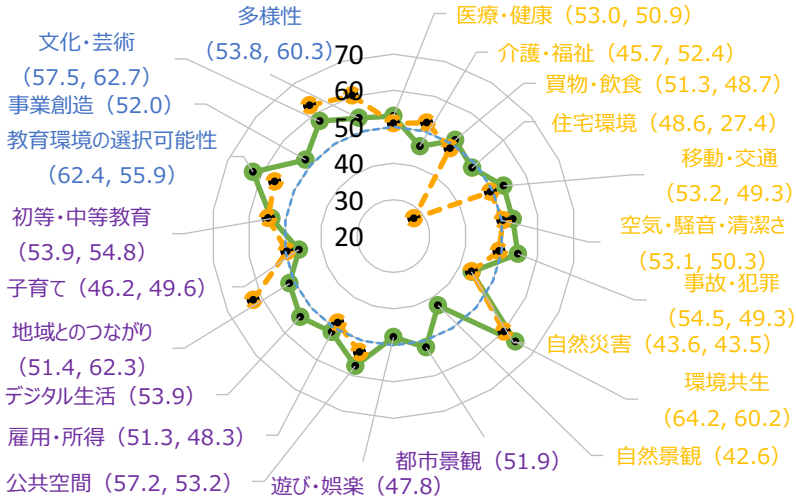


指数	総合	身体	社会	精神	
客観	52.2	51.0	51.7	56.4	—●—
主観	51.7	48.0	53.6	59.6	-●-

\*凡例:  
カテゴリー名 (客観の値、  
主観の値)  
---●--- 平均値

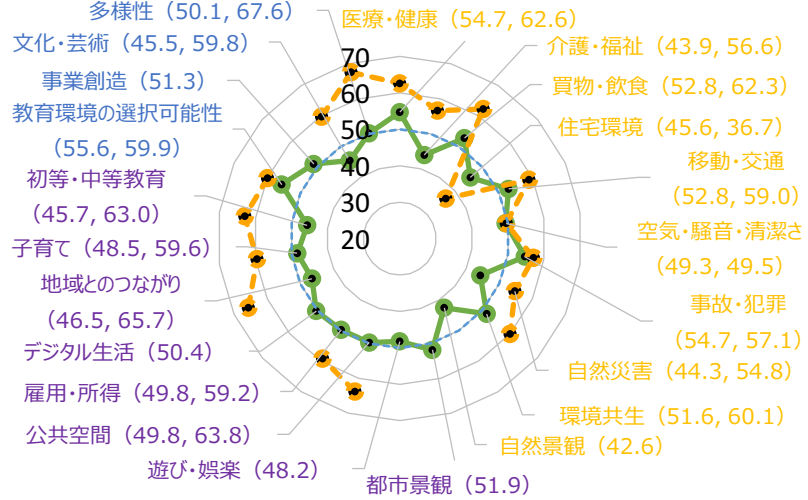
# 鎌倉市の比較対象都市は、藤沢市、小田原市、逗子市、世田谷区、武蔵野市、三鷹市、国立市、流山市、印西市、川越市、つくば市、宝塚市、西宮市、京都市、札幌市。多くに共通する点は公園の豊富さや地価の高さ

\*凡例:  
客観   
主観 



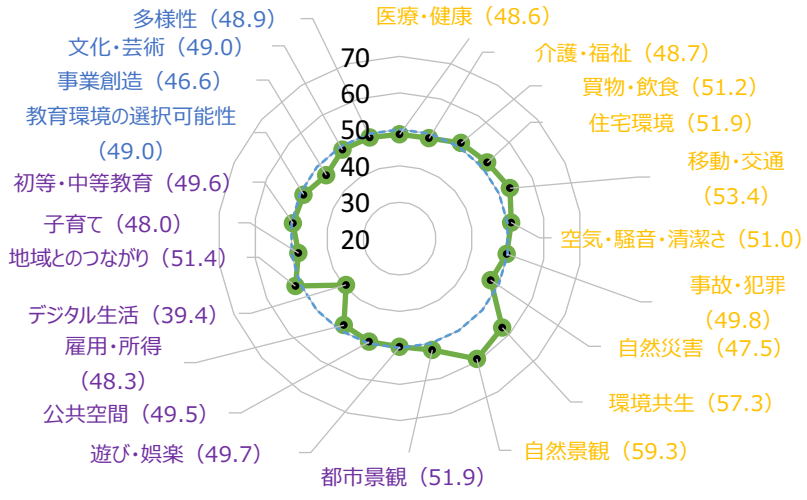
LWCI客観指数	52.2
LWCI主観指数	51.7

## 鎌倉市



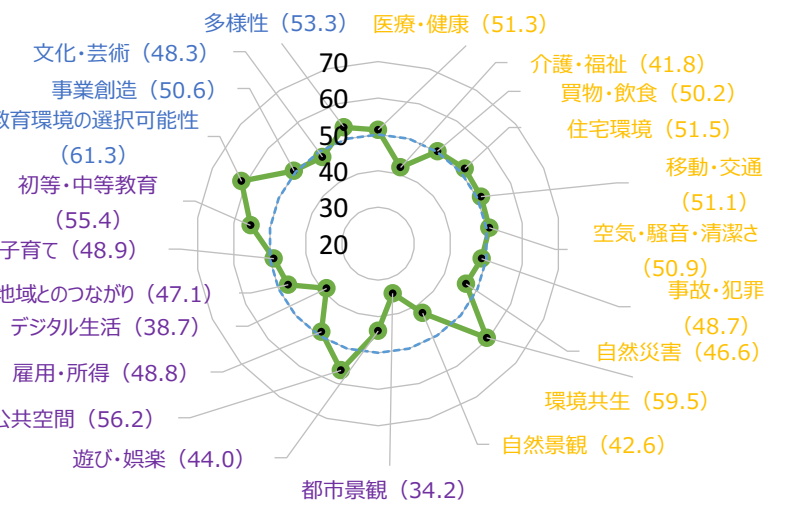
LWCI客観指数	49.3
LWCI主観指数	58.7

## 藤沢市



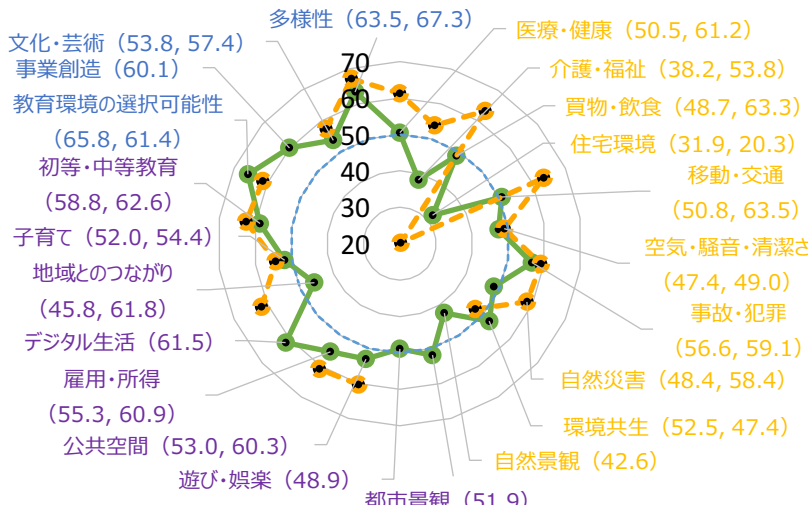
LWCI客観指数	50.0
----------	------

## 小田原市



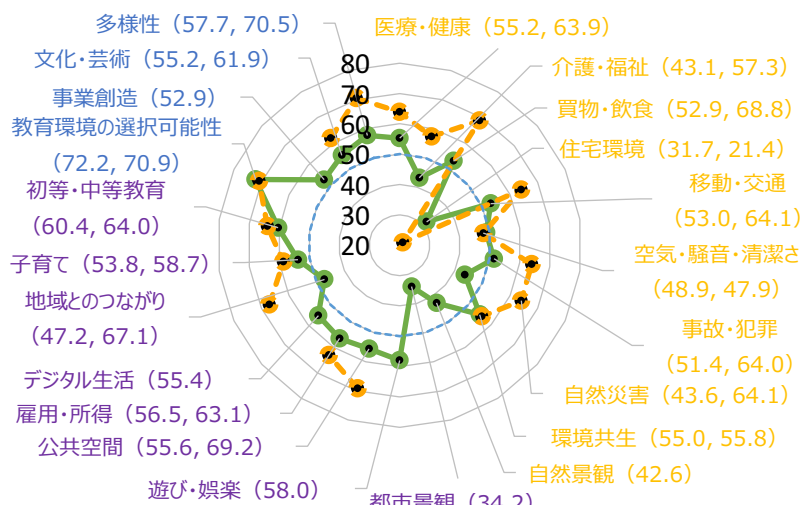
LWCI客観指数	49.1
----------	------

## 逗子市



LWCI客観指数	51.7
LWCI主観指数	56.6

## 世田谷区

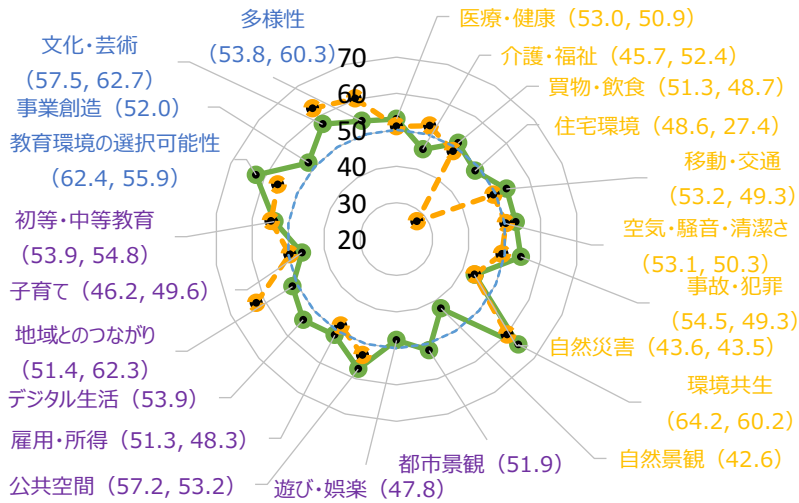


LWCI客観指数	52.0
LWCI主観指数	60.7

## 武蔵野市

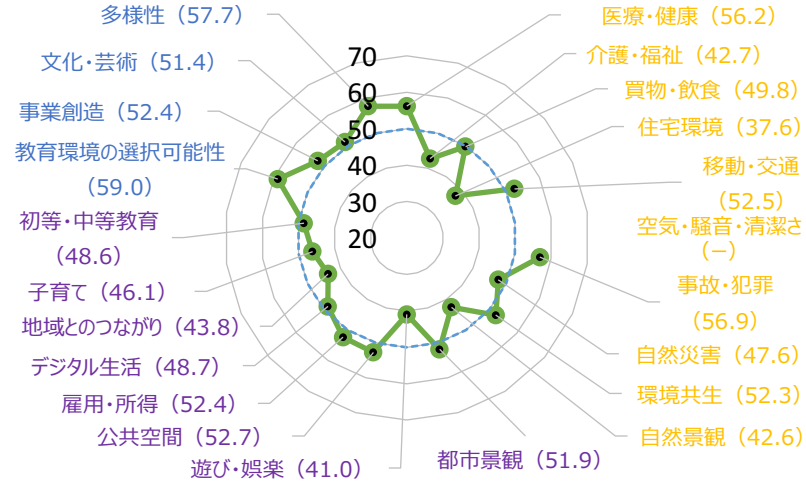
# 鎌倉市の比較対象都市は、藤沢市、小田原市、逗子市、世田谷区、武蔵野市、三鷹市、国立市、流山市、印西市、川越市、つくば市、宝塚市、西宮市、京都市、札幌市。多くに共通する点は公園の豊富さや地価の高さ

\*凡例  
客観 主観



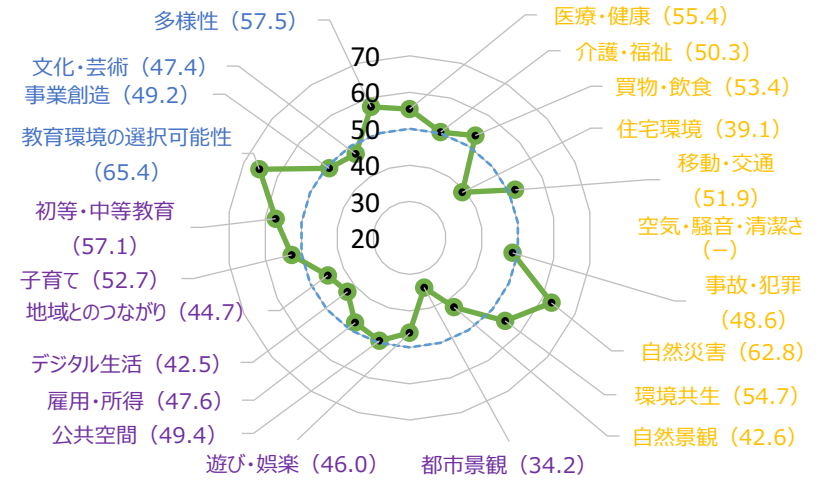
LWCI客観指数	52.2
LWCI主観指数	51.7

## 鎌倉市



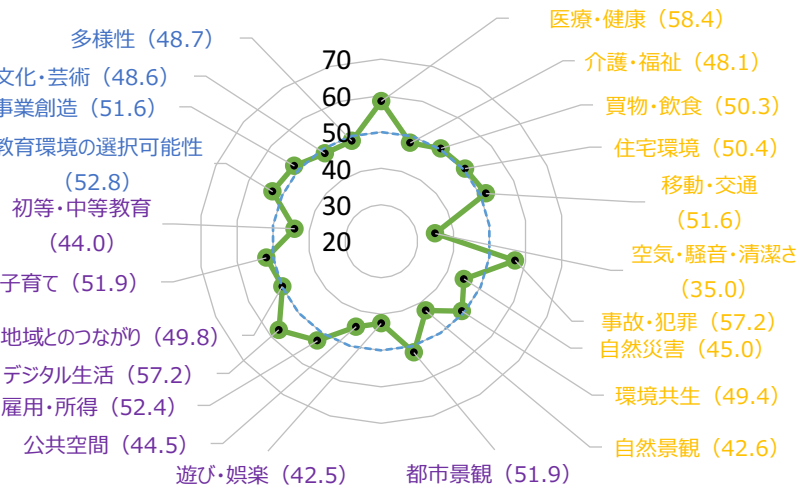
LWCI客観指数	49.7
LWCI主観指数	57.6

## 三鷹市



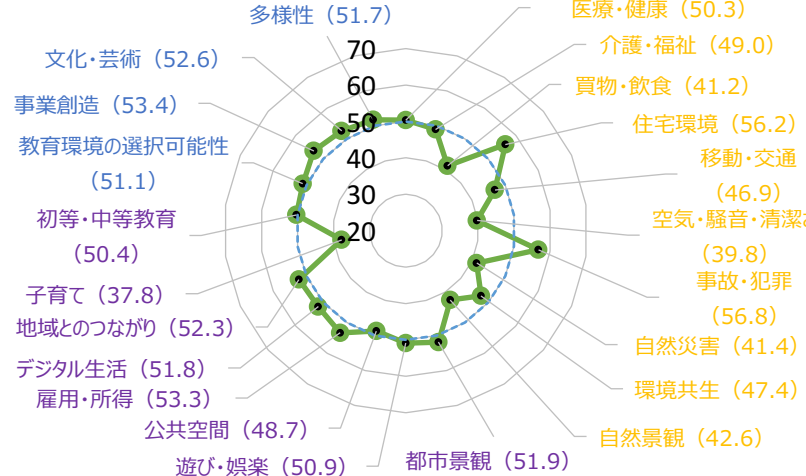
LWCI客観指数	50.1
LWCI主観指数	50.1

## 国立市



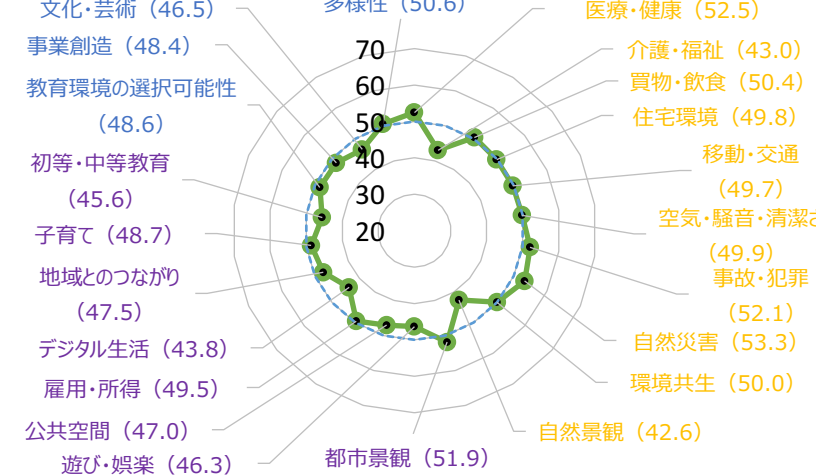
LWCI客観指数	49.3
LWCI主観指数	49.3

## 流山市



LWCI客観指数	49.0
LWCI主観指数	49.0

## 印西市





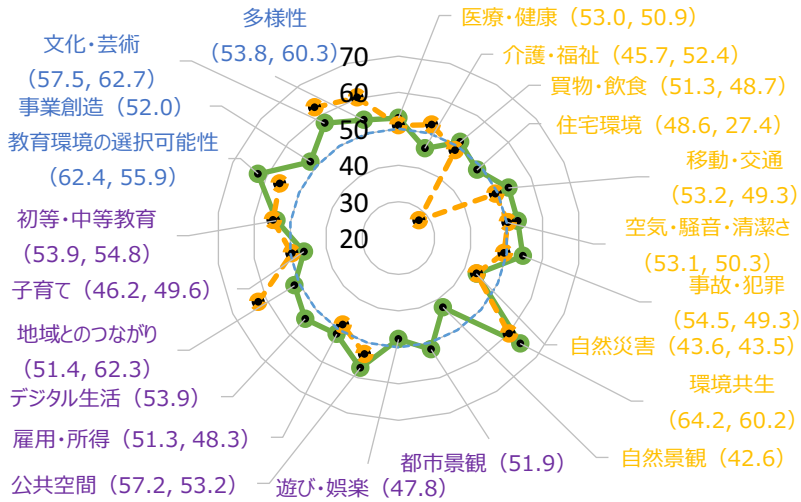
LWCI客観指数	48.5
LWCI主観指数	48.5

## 川越市



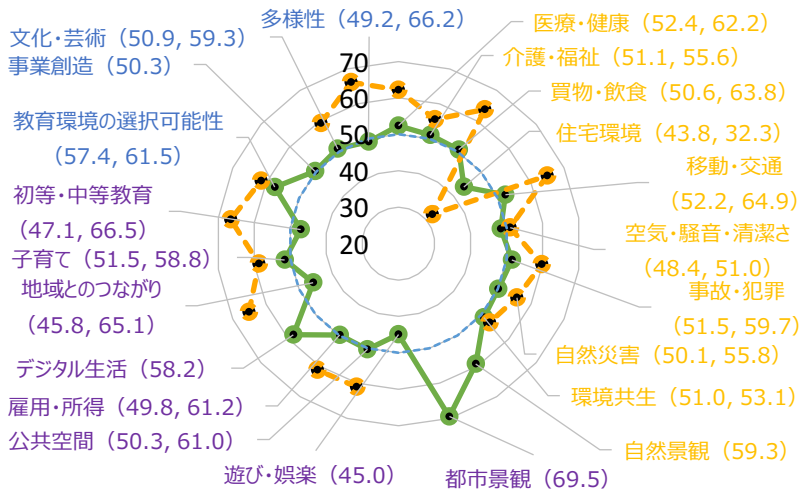
# 鎌倉市の比較対象都市は、藤沢市、小田原市、逗子市、世田谷区、武蔵野市、三鷹市、国立市、流山市、印西市、川越市、つくば市、宝塚市、西宮市、京都市、札幌市。多くに共通する点は公園の豊富さや地価の高さ

\*凡例:  
客観   
主観 



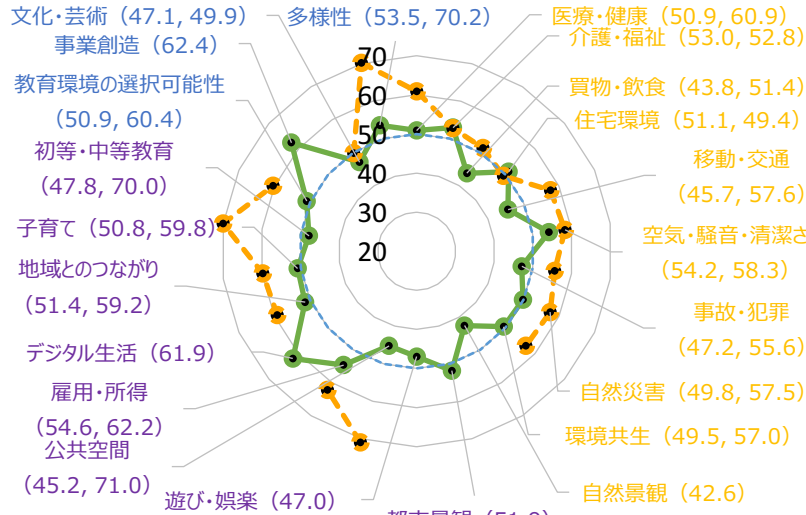
LWCI客観指数	52.2
LWCI主観指数	51.7

## 鎌倉市



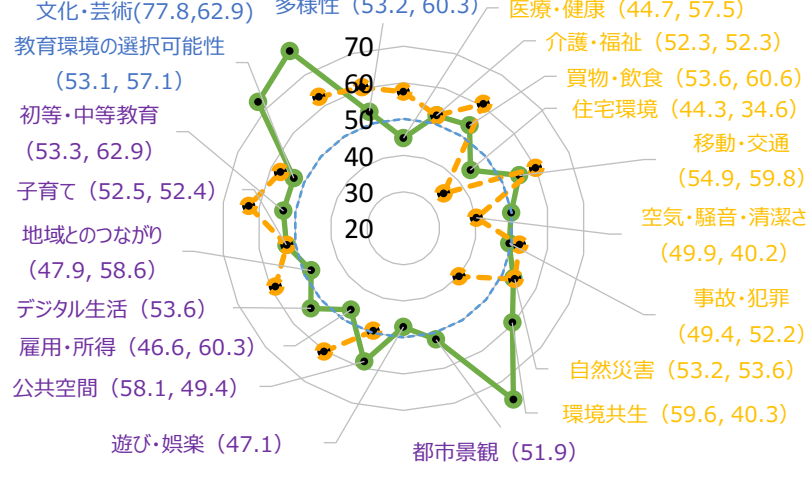
LWCI客観指数	51.6
LWCI主観指数	58.7

## 西宮市



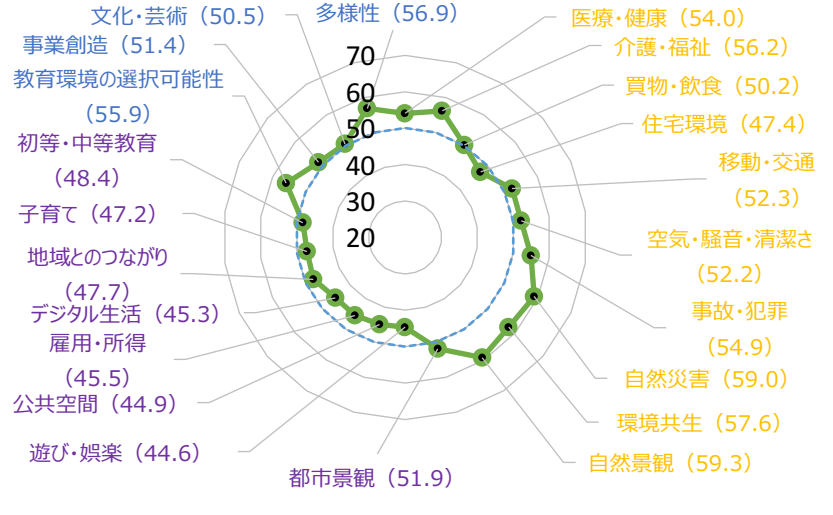
LWCI客観指数	50.6
LWCI主観指数	59.0

## つくば市



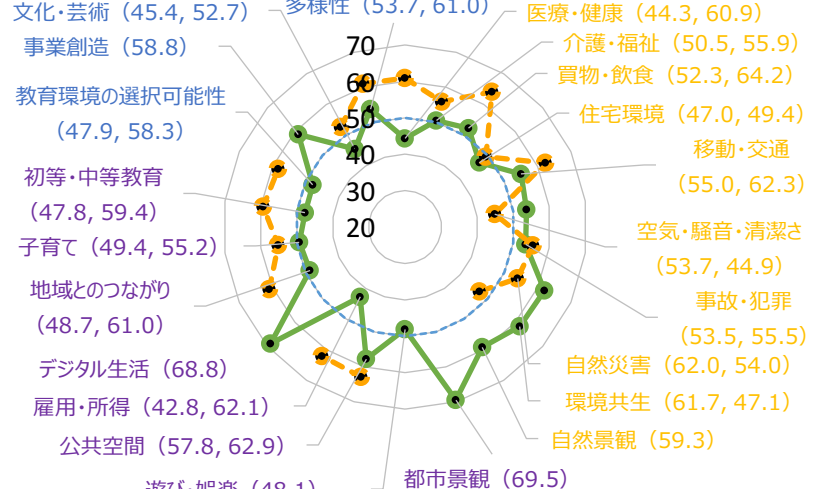
LWCI客観指数	54.8
LWCI主観指数	53.8

## 京都市



LWCI客観指数	51.5
LWCI主観指数	54.6

## 宝塚市



LWCI客観指数	53.5
LWCI主観指数	56.9

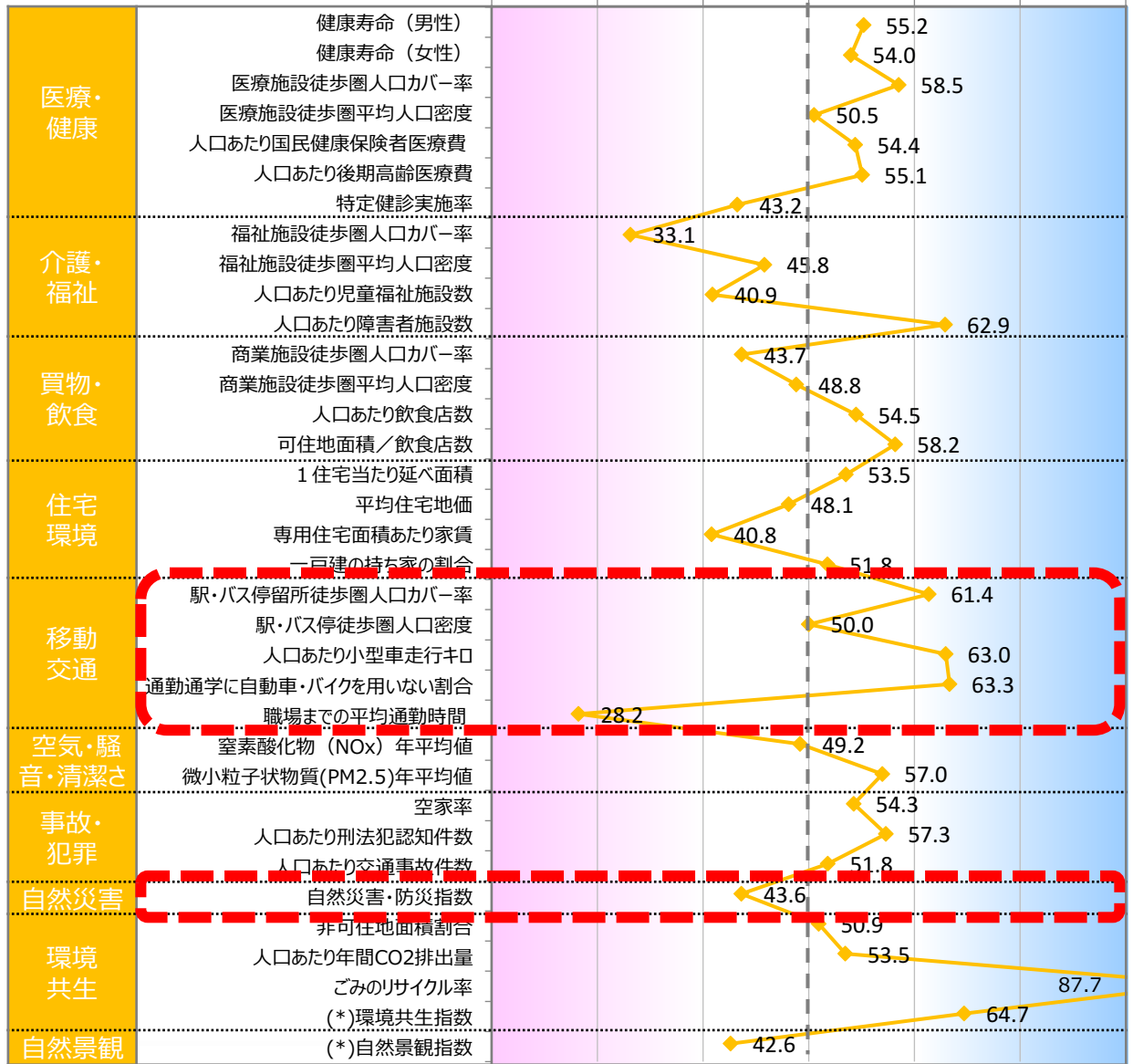
## 札幌市

# 【身体的健康】自然環境に恵まれるとともに、市民の高い意識に基づく突出したごみのリサイクル率の高さ、地理的な要因による自動車利用の抑制により、循環型・脱炭素社会の実現していることが鎌倉市の最大の特長

客観	51.0
主観	48.0

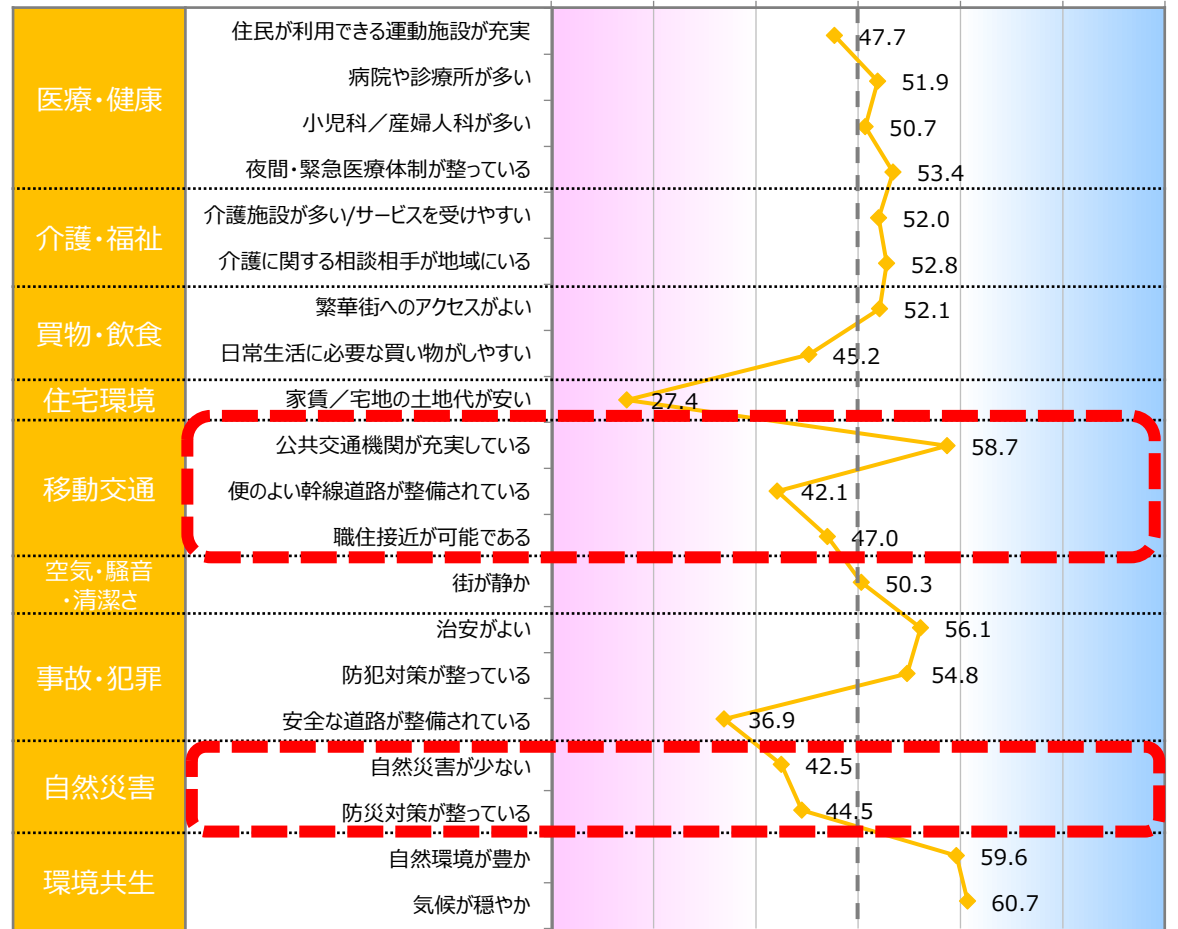
## 客観

20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0



## 主観

20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0



(\*) 指数の説明

指数名	指数の意味	集計対象
環境共生指数	自治体における環境共生への取り組みを総合的に評価	・SDGs未来都市 ・2050年CO2排出実質ゼロ表明 ・グリーン契約の契約方針 ・気候変動イニシアティブへの参加
自然景観指数	まちのきれいな自然景観を総合的に評価	・国立・国定公園 ・農林水産省「美しい日本のむら景観百選一覧」

# 【身体的健康】自然環境に恵まれるとともに、市民の高い意識に基づく突出したごみのリサイクル率の高さ、地理的な要因

による自動車利用の抑制により、循環型・脱炭素社会の実現していることが鎌倉市の最大の特長

客観	51.0
主観	48.0

カテゴリー	考察（カッコ内の数字は対応する指数）	追加KPI候補
医療・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【医療体制】住居からの徒歩圏に医療施設が整っている(58.5)。病院・診療所の充実度に関する住民の実感是他自治体の平均と同程度(51.9)。</li> <li>■ 【住民の健康】男女ともに健康寿命は平均以上（男性：55.2、女性：54.0）。一人当たりの後期高齢者医療費は低い(55.1)ため、高齢者の健康状態は良好と推察される。一方、市の運動・スポーツ施設の充実度は平均的(47.7)であると感じられており、特定健診実施率は低い(43.2)ことから、住民の健康維持のための環境づくりについては、拡充の余地があると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 健康寿命の経年データ</li> <li>■ 運動習慣のある人の割合</li> </ul>
介護・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【介護施設】徒歩圏に福祉施設が非常に少なく(33.1)かつ、施設の密度が比較的高い(45.8)。一方、住民の実感として、介護施設の数については平均的(52.0)と思われる。客観と主観とで乖離がある。要因としては、徒歩圏外の介護施設の利用、介護が必要な人の絶対数が少ない等が考えられる。</li> <li>■ 【福祉】障害者施設の数他都市に比べ非常に多い(62.9)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高齢者人口当たり「通いの場」の数</li> <li>■ 日常で高齢者と関わる頻度</li> <li>■ 日常で障害者と関わる頻度</li> </ul>
買物・飲食	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【賑わい】飲食店の数は面積比(58.2)で多く、人口比(54.5)でも比較的多い一方、主観評価では繁華街へのアクセスは平均的(52.1)である。</li> <li>■ 【商業施設】商業施設徒歩圏人口カバー率が小さく(43.7)、場合によってはアクセスしにくい住民がいることを示唆する。住民からは必要な買い物が比較的しにくい(45.2)と思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 少量の日用品を買う時の移動手段</li> </ul>
住宅環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【地価・家賃】住宅の平均価格は市区町村は平均的(48.1)で、住宅の家賃(40.8)は高い。住民も家賃は突出して高い(27.4)と感じている。</li> <li>■ 【延床面積】住宅当たりの延べ面積は比較的大きい(53.5)。これは、住民協定により区画を分割して売買できない地区が多数あることに由来すると推察される。</li> <li>■ 【まちの雰囲気】戸建て割合(51.8)は平均的。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地区住民の年齢層の均一性に関するデータ</li> </ul>
移動・交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【公共交通機関】住居からバス停・駅までの距離(61.4)や、1人あたりの小型車走行距離が非常に短い(63.0)。また、通勤・通学に自動車等を用いない割合も非常に高い(63.3)ことから、公共交通網が良く整備されている。主観的評価でも、公共交通機関が充実しているという意見が多い(58.7)。</li> <li>■ 【職住近接】職場までの平均通勤時間は突出して長い(28.2)、職住接近が難しいと感じている割合は平均的(47.0)。市内や市付近の交通は充実しているが、通勤に要する時間に課題感がある。</li> <li>■ 【道路】幹線道路の整備状況について評価が低い(42.1)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 主要駅の乗降客数</li> <li>■ 幹線道路の混雑状況</li> <li>■ 日常の移動に困難を感じる人の割合</li> <li>■ 住居の周囲に坂が多いと感じる人の割合</li> <li>■ 土地の起伏に関するデータ</li> </ul>



# 【身体的健康】自然環境に恵まれるとともに、市民の高い意識に基づく突出したごみのリサイクル率の高さ、地理的な要因

による自動車利用の抑制により、循環型・脱炭素社会の実現していることが鎌倉市の最大の特長

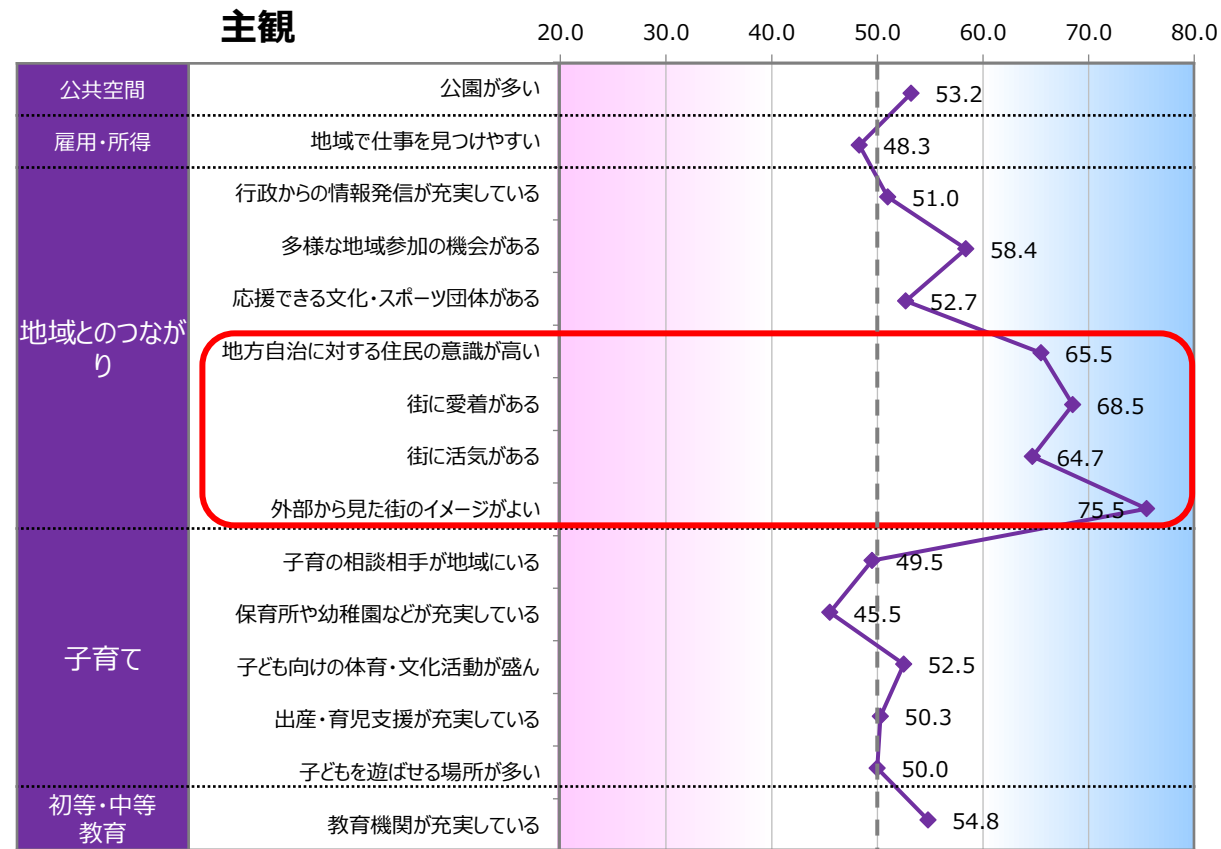
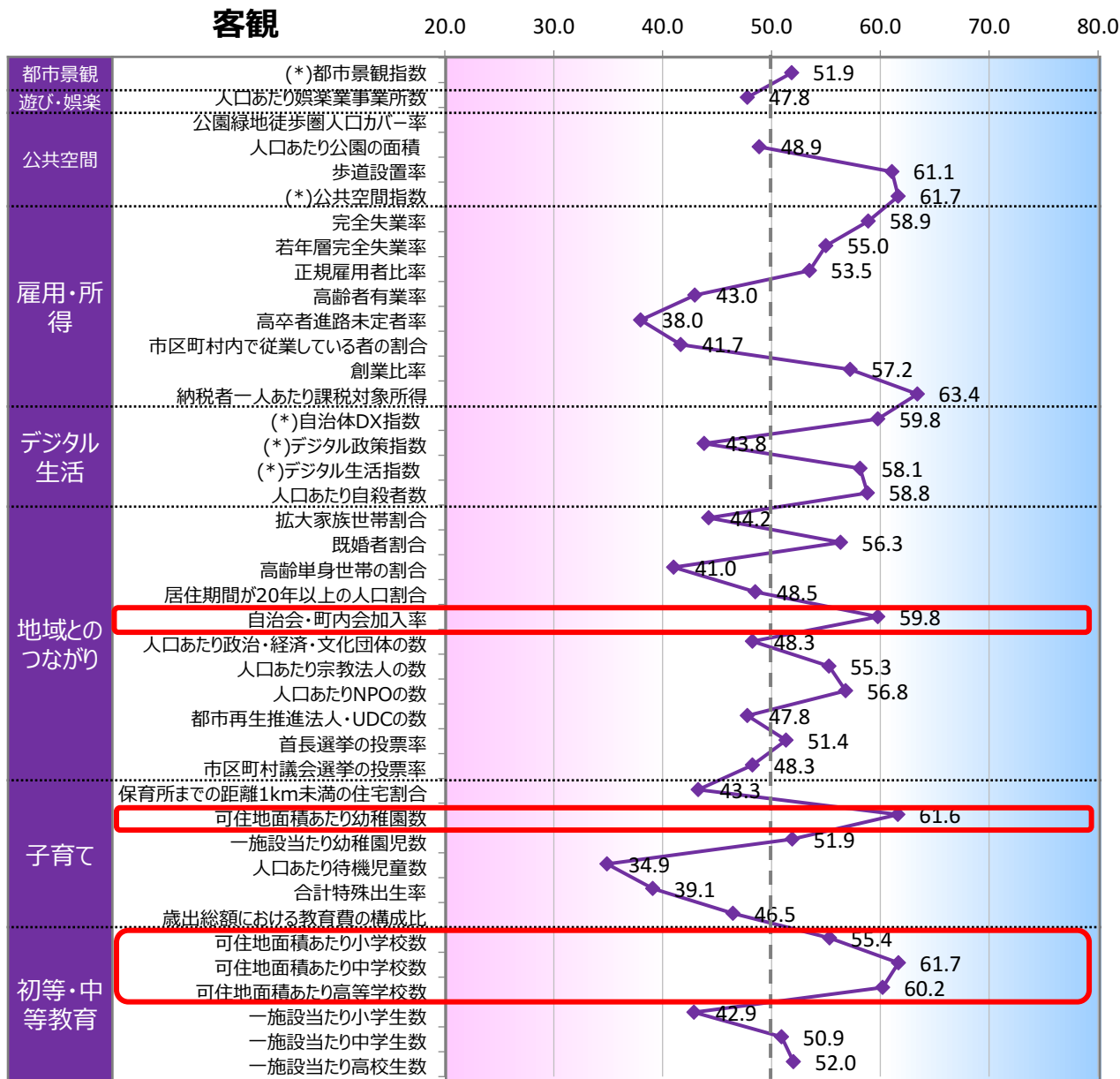
客観	51.0
主観	48.0

カテゴリー	考察（カッコ内の数字は対応する指数）	追加KPI候補
空気・騒音・清潔さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【空気の質】PM2.5の濃度は低く(57.0)、窒素酸化物の濃度は平均的(49.2)である。</li> <li>■ 【騒音】騒音の状況は平均的(50.3)という結果が出ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 騒音に関するデータ</li> <li>■ 空気がきれいだと感じる住民の割合</li> </ul>
事故・犯罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【交通事故】事故件数は平均的である(51.8)。</li> <li>■ 【犯罪】刑法犯認知件数は少ない(57.3)。住民も、防犯対策が比較的整っており(54.8)治安がよい(56.1)と感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 歩道の幅等状況に関する更なるデータ</li> </ul>
自然災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【自然災害・災害対策】自然災害のリスクは高い地域（43.6）。住民は自然災害が多く(42.5)、災害対策が十分でないと感じている(44.5)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ -</li> </ul>
環境共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【自然環境】非可住地面積割合は平均的(50.9)である一方、住民は自然環境が豊かと感じている(59.6)。また、非常に気候が穏やかと感じられている(60.7)。主観の自然環境への評価が高い理由としては、他都市と比べ、自然が生活圏の周りに多くあるためと推察される。</li> <li>■ 【環境保全】リサイクル率や他都市と比べ突出して高く(87.7)、自治体の取り組み度合いを示す環境共生指数も非常に高いため(64.7)、住民ならびに自治体の環境に関する意識は高いと推察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 環境問題に関する市民の意識調査</li> </ul>
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【自然景観】自然景観指数は低い(42.6)。</li> </ul>	

# 【社会的健康】自治会・町内会への加入率が高く、強い街への愛着と高い自治意識を持つシビックプライドの高いまち

## 幼稚園から高校まで教育機関は多いが過密気味で人気エリアにおいては学校数が不足している可能性

客観	51.7
主観	53.6



(\*)指数の説明

指数名	指数の意味	集計対象
都市景観指数	まちの素敵な都市景観を総合的に評価	・「都市景観大賞」受賞の市区町村 ・景観条例の有無
公共空間指数	歩きたくなる街並みかどうかを総合的に評価	・ウォーカブル推進都市 ・地方版自転車活用推進計画
自治体DX指数	自治体内部のDX推進状況を総合的に評価	・総務省「自治体DX・情報化推進概要」のカテゴリ（「自治体DXの推進体制等」、「行政サービスの向上・高度化」等）
デジタル政策指数	自治体による住民のデジタル環境を整える取り組みを総合的に評価	・国土交通省Plateauの対象 ・オープンデータ公表 ・ローカル5G 開発実証事業採択 ・スマートシティ合同審査 ・マイナンバーカード 取得率 ・国勢調査ネット回答率
デジタル生活指数	まちのデジタル環境を総合的に評価	・Code for Japan 関連組織 ・ファブラボ ・CoderDojo ・大学のICT関連学部 ・高等専門学校 ・10万人あたりキャリア店舗数



**【社会的健康】自治会・町内会への加入率が高く、強い街への愛着と高い自治意識を持つシビックプライドの高いまち**  
**幼稚園から高校まで教育機関は多いが過密気味で人気エリアにおいては学校数が不足している可能性**

客観	51.7
主観	53.6

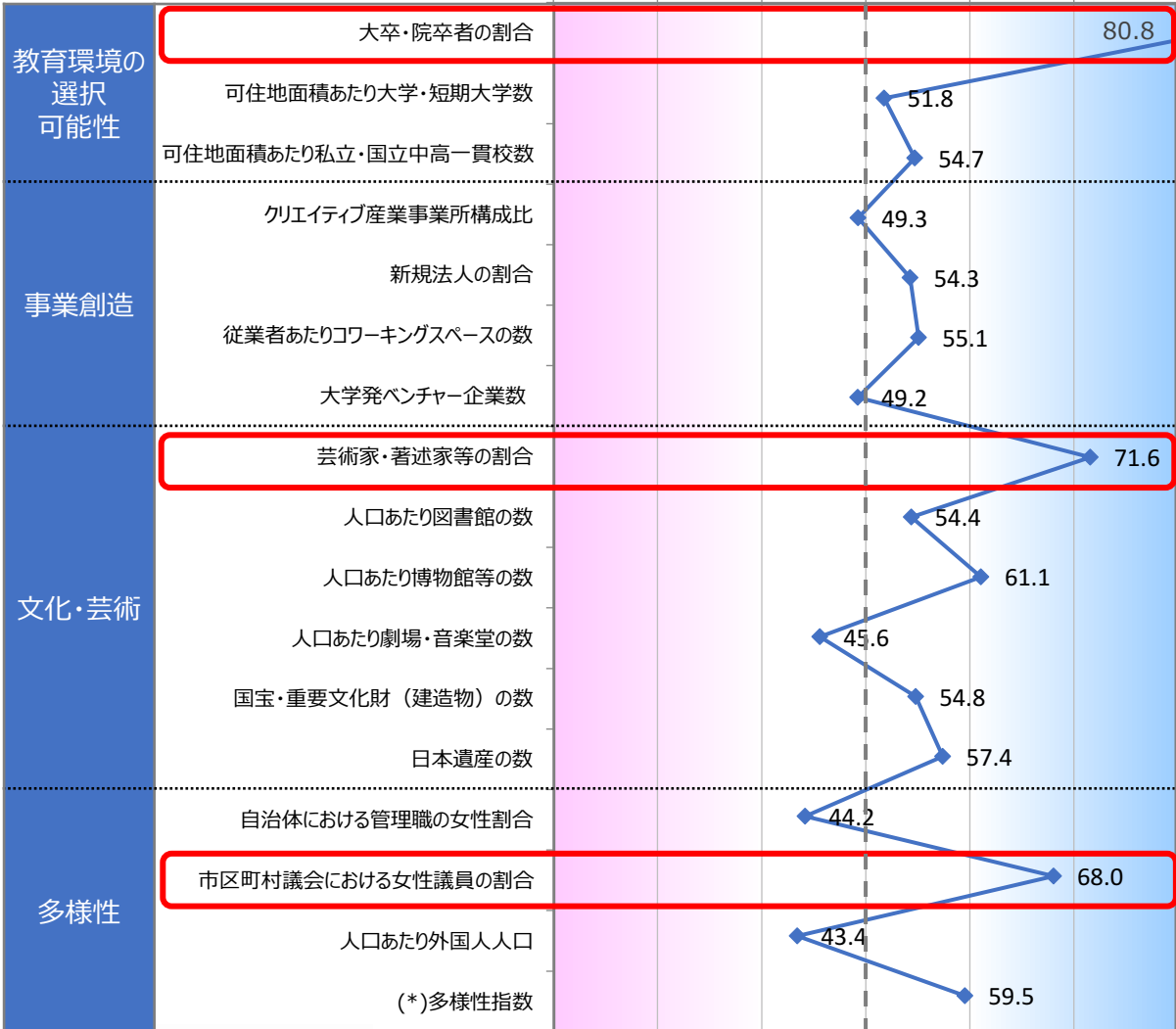
カテゴリー	考察 (カッコ内の数字は対応する指数)	追加KPI候補
都市景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【都市景観】都市の景観は平均的 (51.9)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ -</li> </ul>
遊び・娯楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【娯楽】娯楽業の事業所の数は平均的(47.8)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ -</li> </ul>
公共空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【公園】一人あたりの公園面積は平均的 (48.9) だが、住民は公園の数が比較的多い(53.2)と感じている。</li> <li>■ 【歩きやすさ】歩道設置率が非常に高く (61.1)、公共空間指数も非常に高い (61.7)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 規模別の公園数</li> <li>■ 球技が禁止されていない公園の数</li> </ul>
雇用・所得	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【雇用】完全失業率(58.9)は平均的で、若年層失業率(55.0)は比較的低い。また正規雇用比率(53.5)は比較的高いことから、住民の雇用は安定している。一方、主観評価における地域での仕事の見つけやすさは平均的(48.3)であるため、相対的に市外で働く人が多いことを示唆している。実際、市内で就業している人の割合は低い(41.7)。なお、新規事業所開設数を含む創業比率が高い(57.2)ため、市内雇用は増えている傾向と推察される。</li> <li>■ 【所得】課税対象所得は他都市と比べて非常に高い(63.4)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 民間企業における女性管理職の割合</li> <li>■ 所得格差を測るジニ係数</li> <li>■ 年齢別保有資産額</li> </ul>
デジタル生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【自治体DX】自治体DX指数 (59.8)が高いことから行政DXは進んでいる。</li> <li>■ 【デジタル政策】国勢調査のネット回答率、地方版IoT推進ラボ等のデジタル政策指数が低い (43.8)。</li> <li>■ 【デジタル生活】ファブラボ等があり、デジタル生活指数が高い (58.1)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ -</li> </ul>
地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【住民同士のつながり】拡大家族世帯が少なく(44.2)、高齢単身世帯が多い(41.0)ため、家族間のつながりは限定的と推察される。一方、住民同士の結びつきが強いため、自治会加入率が高く(59.8)、NPO法人数(56.8)や宗教法人数(55.3)が多いことが特長。なお、主観でも、多様な地域参加の機会に関する評価が高く(58.4)、地域のコミュニティのつながりは強いと推察される。また、住民が孤立していない現状があるのか、自殺者数は少ない(58.8)。</li> <li>■ 【街への愛着】主観評価では、街への愛着度合(68.5)が非常に高く、外部から見たまちのイメージが良いととらえている割合(75.5)も突出して高い。</li> <li>■ 【自治意識】地方自治に対する住民の意識が非常に高い(65.5)。</li> <li>■ 【政治参加】選挙の投票率は平均的(首長選挙：51.4、市議会選挙：48.3)。自治意識と比べ投票率が相対的に低いことは、政治参加以外の地域貢献のあり方を見出していることを示唆する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域活動への参加率</li> <li>■ 仕事以外の自己実現の手段を有する割合</li> <li>■ サードプレイスを有する割合</li> <li>■ 家族・親族以外で地域に尊敬できる人の居る割合</li> </ul>
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【幼稚園・保育園】幼稚園数が非常に多い(61.7) 一方で、保育園までの距離が近い住宅数が少ない(43.4)ため、保育施設が十分でない可能性がある。片働き世帯を前提とする子育て環境となっている可能性がある。</li> <li>■ 【出生率】合計特殊出生率が非常に低い(39.1)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一日のうち子供・孫と会話する時間</li> <li>■ 赤ちゃんのおむつを取り替えられる父親の割合</li> <li>■ 平日未就学児の子供を風呂に入れる父親の割合</li> </ul>
初等・中等教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【学校数】可住地面積あたりの小学校(55.4)は多く、中学校(61.7)、高校(60.2)の数が非常に多く通学しやすい環境。主観調査でも教育機関の充実度は比較的高い(54.8)。一方、小学校1施設あたりの児童数は比較的多いため(42.9)、過密である可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ -</li> </ul>

**【精神的健康】** 芸術家・著述家等の割合が非常に高く、新しい文化を創造するまち。女性議員の割合が高く、魅力的な人が住んでいると思われるなど、多様性を感じさせられるまちであり、高学歴の人々が集まりやすい。

客観	56.4
主観	59.6

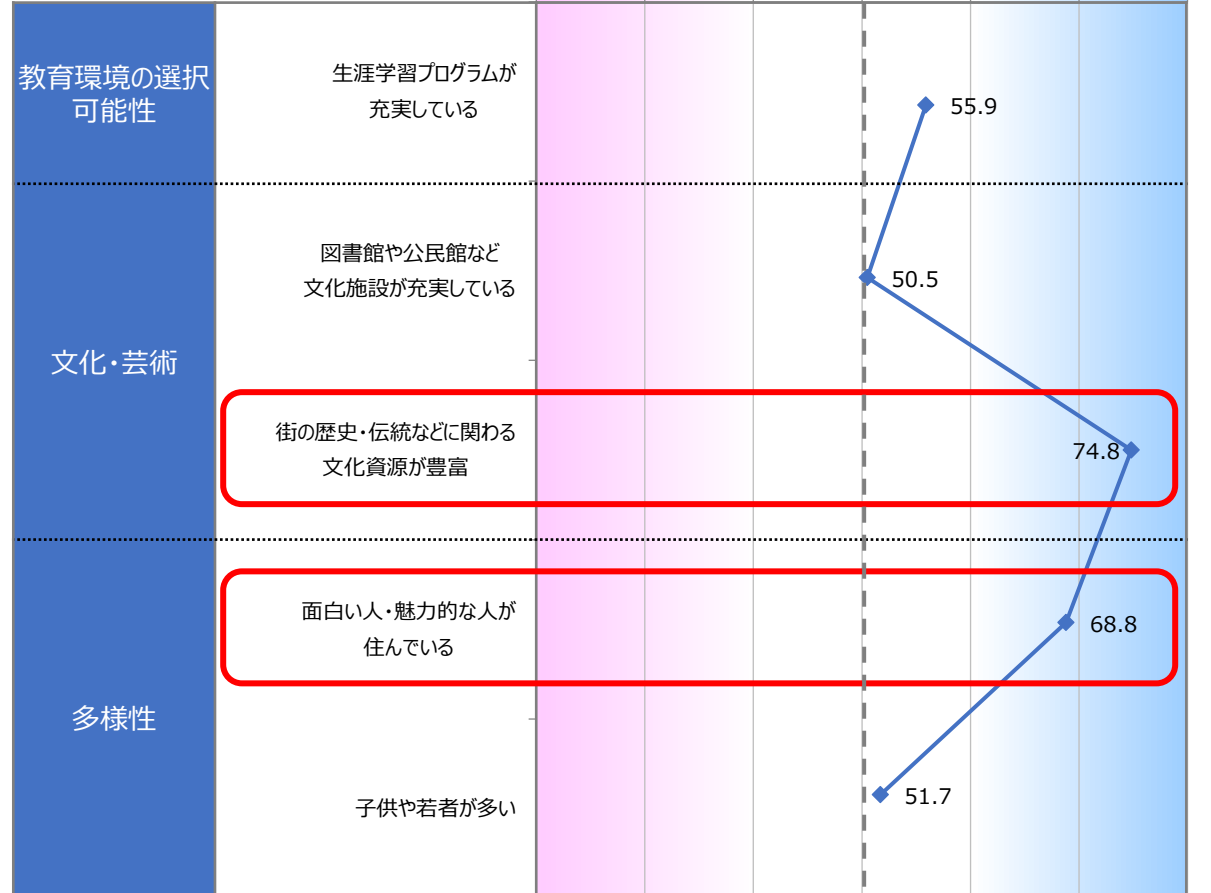
**客観**

20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0



**主観**

20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0



(\*)指数の説明

指数名	指数の意味	集計対象
多様性指数	住民の多様性を総合的に評価	・パートナーシップ宣誓制度 ・住民の平均年齢が45歳以下であること

**【精神的健康】** 芸術家・著述家等の割合が非常に高く、新しい文化を創造するまち。女性議員の割合が高く、魅力的な人が住んでいると思われるなど、多様性を感じさせられるまちであり、高学歴の人々が集まりやすい。

客観	56.4
主観	59.6

カテゴリー	考察（カッコ内の数字は対応する指数）	追加KPI候補
高等教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【大卒・院卒割合】大卒・院卒の割合が突出して高い(80.8)。</li> <li>■ 【教育機関】可住地面積あたりの大学・短大数(51.8)は平均的。中高一貫校数(54.7)は比較的多い</li> <li>■ 【生涯学習】住民は生涯学習プログラムが充実していると感じている(55.9)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ラボ等図書の見学以外の空間を有している、またはそれら施設と併設されている図書館の割合</li> </ul>
事業創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【創業】新規法人割合が比較的高い(54.3)。</li> <li>■ 【創業環境】コワーキングスペースの数が多く(55.1)、事業創造がしやすい環境だと推察される。ただし、大学発ベンチャー企業は平均的(49.2)。</li> <li>■ 【クリエイティブ産業】全産業におけるクリエイティブ産業比率は平均的(49.3)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スタートアップ数</li> <li>■ インキュベーション施設数</li> <li>■ インキュベーション施設・コワーキング施設の利用率</li> </ul>
文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【芸術家】芸術家、著述家等は突出して多い(71.6)。</li> <li>■ 【図書館】図書館の数が多い(54.4)。</li> <li>■ 【文化施設】博物館の数が多い(61.1)。</li> <li>■ 【遺産】国宝や重要文化財に指定されている建物の数(54.8)や日本遺産の数(57.4)が多く、古都鎌倉の豊かな文化資源となっている。</li> <li>■ 【音楽】劇場・音楽堂の数は比較的小さい(45.6)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 芸術家の人数や芸術への関心度等、芸術に関連するKPI</li> </ul>
多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 【議会】女性議員の割合が非常に高い(68.0)。</li> <li>■ 【自治体】市役所における女性管理職の割合は低い(44.2)。</li> <li>■ 【外国人】外国人人口は少ない(43.4)。</li> <li>■ 【多様な人材】住民は、当地に様々な面白い人・魅力的な人が非常に多い(68.8)と評価しており、多様な人材が集積していると推察される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 外国人来訪者に関するデータ</li> <li>■ 多様性を好む地域と答える割合</li> <li>■ 多様な人材が集まる地域と答える割合</li> </ul>



鎌倉市民は古都鎌倉の豊かな自然と文化・芸術の恩恵を受けているため、これらを大事にする意識が強い。このことが、鎌倉市が環境共生都市として非常に高い水準を誇る要因と推察される

<鎌倉市市民意識調査(令和元年度)(\*)>

順位	施策の方針の名前	LWCIとの対応	NPS
1	地震対策・風水害対策の充実	自然災害	209
2	3Rの推進・ごみの適正処理	環境共生	191
3	市民の健康と安心づくりの推進	医療健康	131
4	すべての子育て家庭への支援	子育て	115
5	歴史的風土の保存	文化・芸術	108
6	緑の保全等	環境共生	98
7	道路・交通体系の検討	移動・交通	84
8	教育内容・教育環境の充実	初等・中等教育	77
9	下水道の整備・管理	その他	71
10	史跡の指定、保存・管理、設備及び活用	文化・芸術	68
11	子育て支援施策の整備	子育て	65
12	防犯活動の充実・強化	事故・犯罪	64
13	道路・橋りょうの整備・維持管理	移動・交通	61
14	学校施設の整備	初等・中等教育	60
15	まちの美化	空気・騒音・清潔さ	56
16	環境汚染の防止	空気・騒音・清潔さ	54
17	地域生活の支援サービス	介護・福祉	41
18	安全・安心で開かれた学校づくり	初等・中等教育	39
19	文化財の保存、調査・研究、情報の充実	文化・芸術	37
20	海浜の環境保全	環境共生	35
21	都市公園等の整備・管理	公共空間	28

順位	施策の方針の名前	LWCIとの対応	NPS
22	消防機能の整備・充実	事故・犯罪	26
23	危機管理対策	自然災害	24
24	公共交通機関の輸送力の向上と利用の促進	移動・交通	24
25	学習環境の整備・充実	教育環境の選択可能性	21
26	市街地整備の推進	住宅環境	17
27	野生鳥獣等への対応	環境共生	4
28	観光都市としての質の向上	雇用・所得	-3
29	水辺環境の整備・創出・管理	環境共生	-6
30	青少年の育成・支援	子育て	-9
31	駐輪対策の推進	移動・交通	-10
32	安全で快適な観光空間の整備	雇用・所得	-11
33	農業・漁業の振興	雇用・所得	-13
34	良好な都市景観形成事業の推進	住宅環境	-14
35	交通安全意識の高揚	事故・犯罪	-25
36	次代に向けたエネルギー・環境対策の推進	環境共生	-29
37	文化活動の支援・推進	文化・芸術	-36
38	雇用支援の充実	雇用・所得	-40
39	働く環境の充実	雇用・所得	-40
40	下水道資源の有効利用	その他	-45
41	スポーツ施設の整備	医療健康	-47

順位	施策の方針の名前	LWCIとの対応	NPS
42	多様な学習機会の提供と学習成果の活用	教育環境の選択可能性	-48
43	商工業振興の充実	雇用・所得	-50
44	消費者施策の推進	買物・飲食	-50
45	鎌倉らしい住まいづくり	住宅環境	-54
46	人権施策の充実	その他	-67
47	地域が一体となった観光振興の推進	遊び・娯楽	-83
48	市民スポーツ・レクリエーションの推進	医療健康	-90
49	技能振興の充実	雇用・所得	-97
50	多文化共生社会の推進	多様性	-100
51	平和推進事業の充実	その他	-123

(\*) 表の説明

- 鎌倉市市民意識調査(令和元年度)のアンケート「問10 施策間の重要度」のデータをもとに作成。
- 総合計画に取り上げられている51の「施策の方針」から、「重要であると思うもの」と「重要でないと思うもの」を市民が選択し回答
- 「重要であると思うもの」の回答数から「重要でないと思うもの」の回答数を差し引いたものをNPS(ネット・プロモーター・スコア)として算出し、このスコアの高い順に市民にとって重要であると順位付け

# 鎌倉市民は環境共生、自然災害、文化・芸術、初等・中等教育、子育て関連の施策を重要視している

## <鎌倉市市民意識調査(令和元年度)>

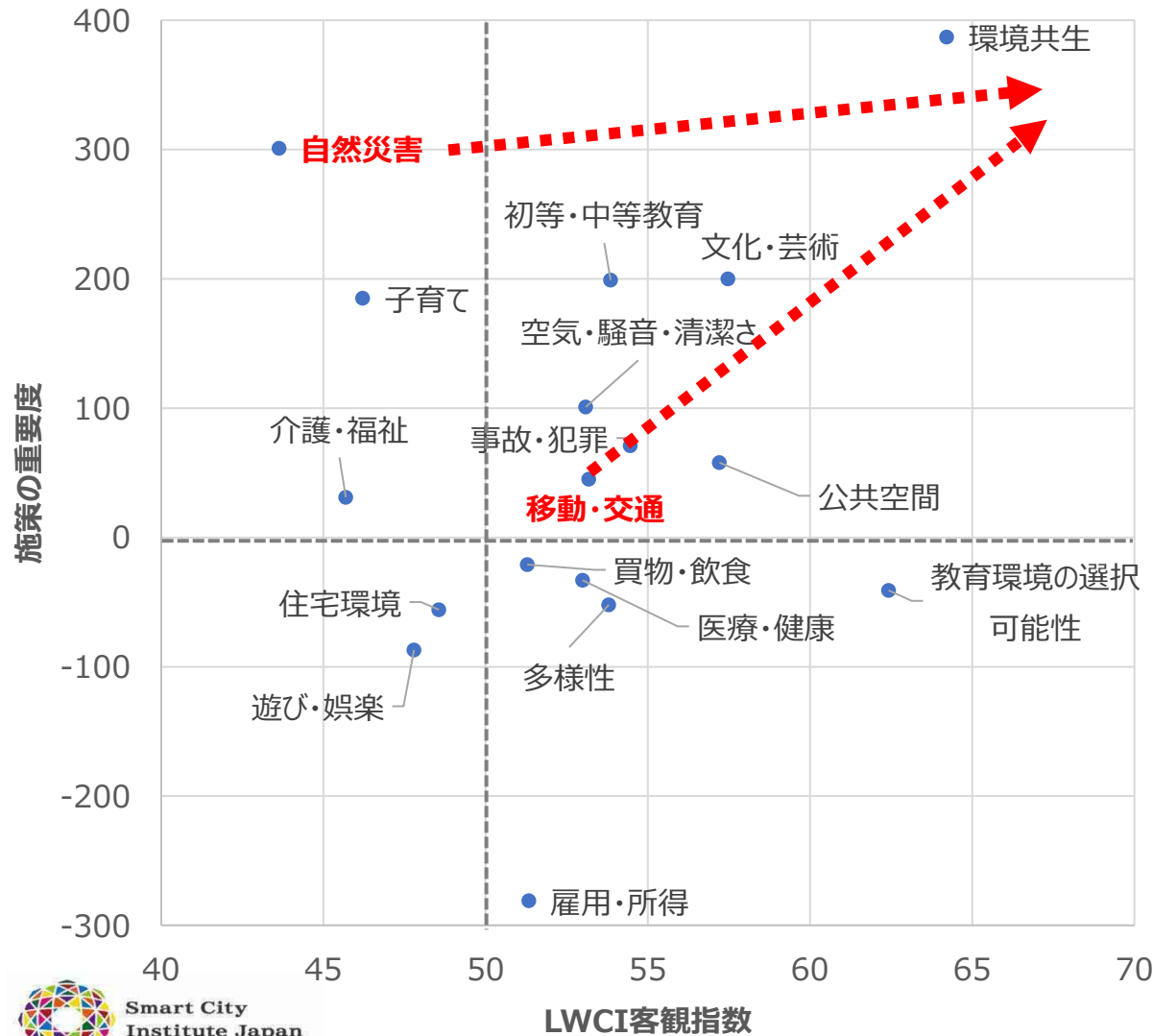
順位	LWCIカテゴリー	各施策NPSの カテゴリー合計
1	環境共生	293
2	自然災害	233
3	文化・芸術	177
4	初等・中等教育	176
5	子育て	171
6	移動・交通	159
7	空気・騒音・清潔さ	110
8	事故・犯罪	65
9	公共空間	28
10	介護福祉	0
11	地域とのつながり	0
12	医療健康	-6
13	教育環境の選択可能性	-27
14	買物・飲食	-50
15	住宅環境	-51
16	多様性	-100
17	雇用・所得	-254

### 特徴

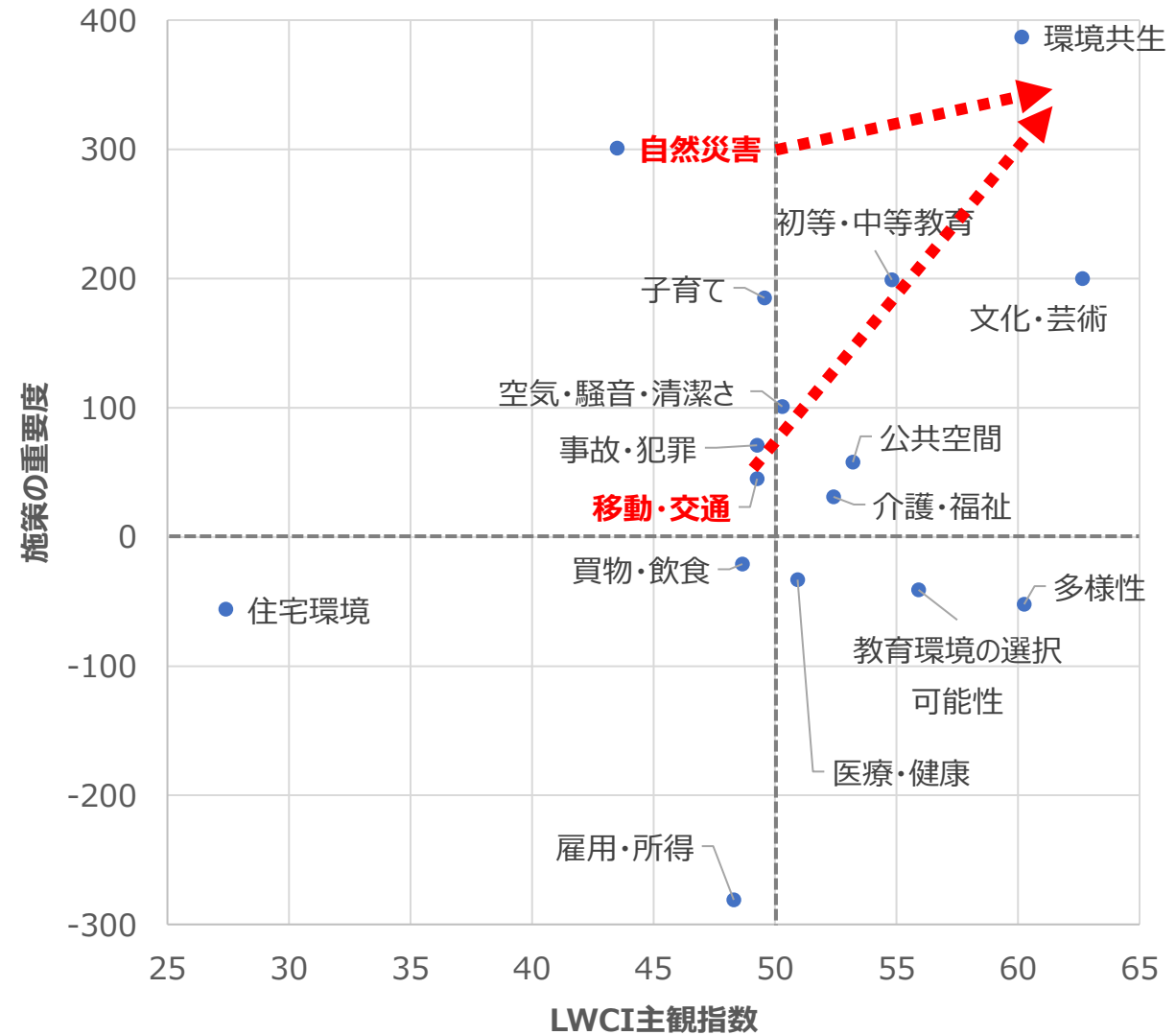
- 鎌倉市民が重視している施策Top20のうち、3つが環境共生関連である。
- 特に、「3Rの推進・ごみの適正処理」が「地震対策・風水害対策の充実」に次ぐ第2位であり、この意識の高さがリサイクル率全国1位（後述）を誇る直接の要因と推察される。
- 全施策について、対応するLWCIカテゴリーに分類しNPSを合計すると、「環境共生」が他のカテゴリーと比較しても突出したスコアとなっている。
- 全カテゴリー中2位の「自然災害」において「地震対策・風水害対策の充実」が突出して多く、発生が予測されている大津波や近年頻発する異常気象やへの危機感が現れている
- 全カテゴリー中3位の「文化・芸術」については重視している施策Top20のうち、3つが入っており鎌倉の豊かな文化・芸術を守り育てようとする市民の意識は高い。
- 以上から市民にとって、古都鎌倉の文化ならびに自然環境は市民生活と不可分なものであり、これを保全するための強い動機づけが意識調査に現れていると推察される。
- この市民意識の高さが、鎌倉市が環境共生都市として非常に高い水準を誇る要因と推察される。

「環境共生」が市民にとって重要度が高く、かつ客観・主観の評価が高い。加えて、市民にとっての重要度が高いが更なる取組が求められる分野は「子育て」や「自然災害」

LWCI (客観) の評価 vs. 施策の重要度

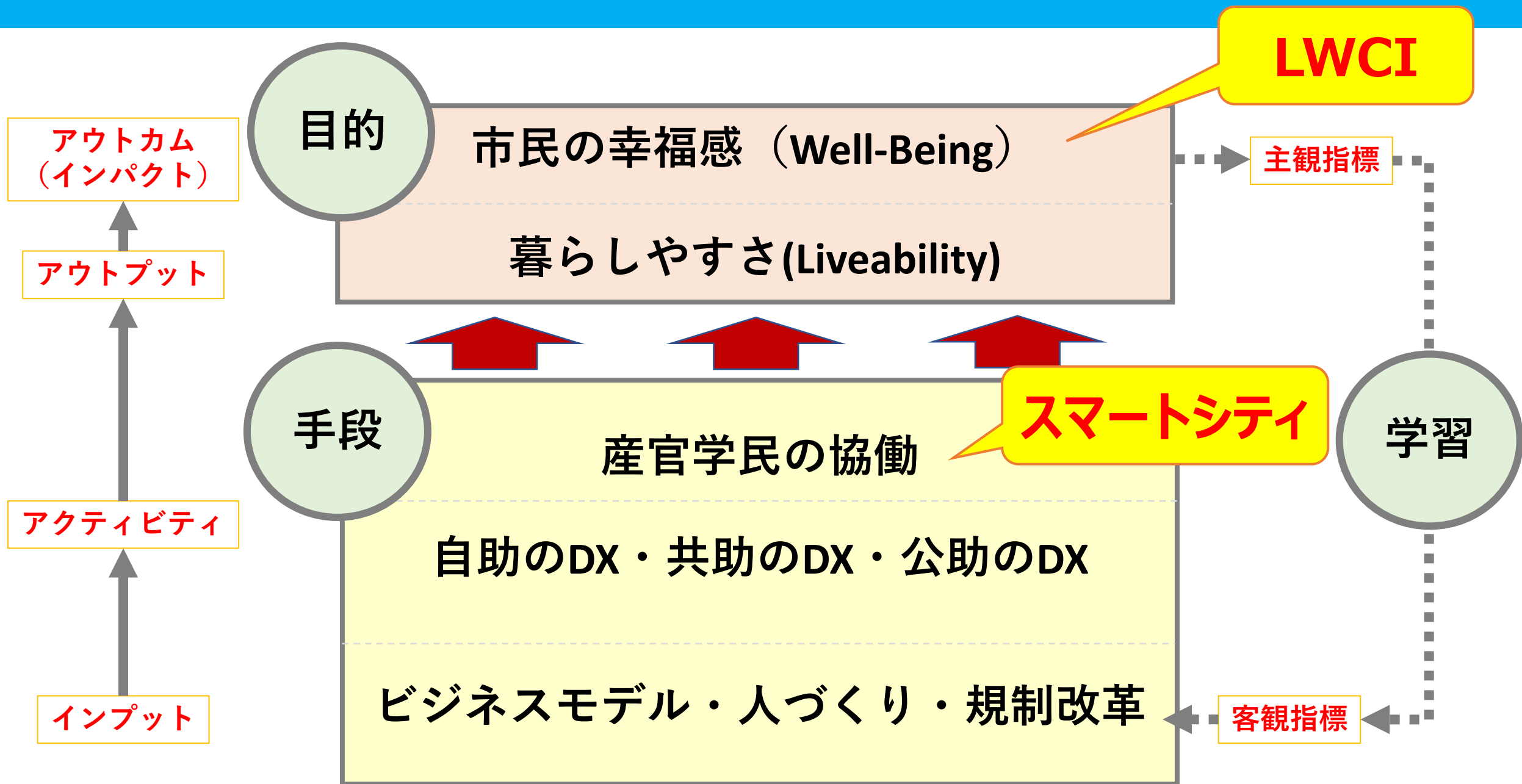


LWCI (主観) の評価 vs. 施策の重要度





# LWC指標を活用したスマートシティのロジックモデル概要



アウトカム  
(インパクト)

アウトプット

市民の幸福感 (Well-Being)

暮らしやすさ (Liveability)

戦略テーマの  
記載例

経済的な豊かさ

自分らしい生活

公正性・公平性

環境との共生

価値の種類

経済的価値

市民的価値

公共的価値

環境的価値

主なアクター

民間企業

地域コミュニティ・NPO

政府・自治体

政府・自治体 民間企業・  
地域コミュニティ・NPO

具体的な活動の  
キーワード例

- 適切な雇用・所得
- 新たな事業の創造
- イノベーション

- 信頼・相互扶助
- うるおい・やりがい
- 参加・当事者意識

- 安全・安心
- インクルージョン
- ルール形成・改革

- 脱炭素・気候危機
- 循環経済・社会
- 生物多様性

ESGとの関係

経済 (Economy)

社会 (Society)

環境 (Environment)

SDGsとの関係



# 【スマートシティ共創マップ標準形】

Why & What?

Where?

Who?

How? & When?

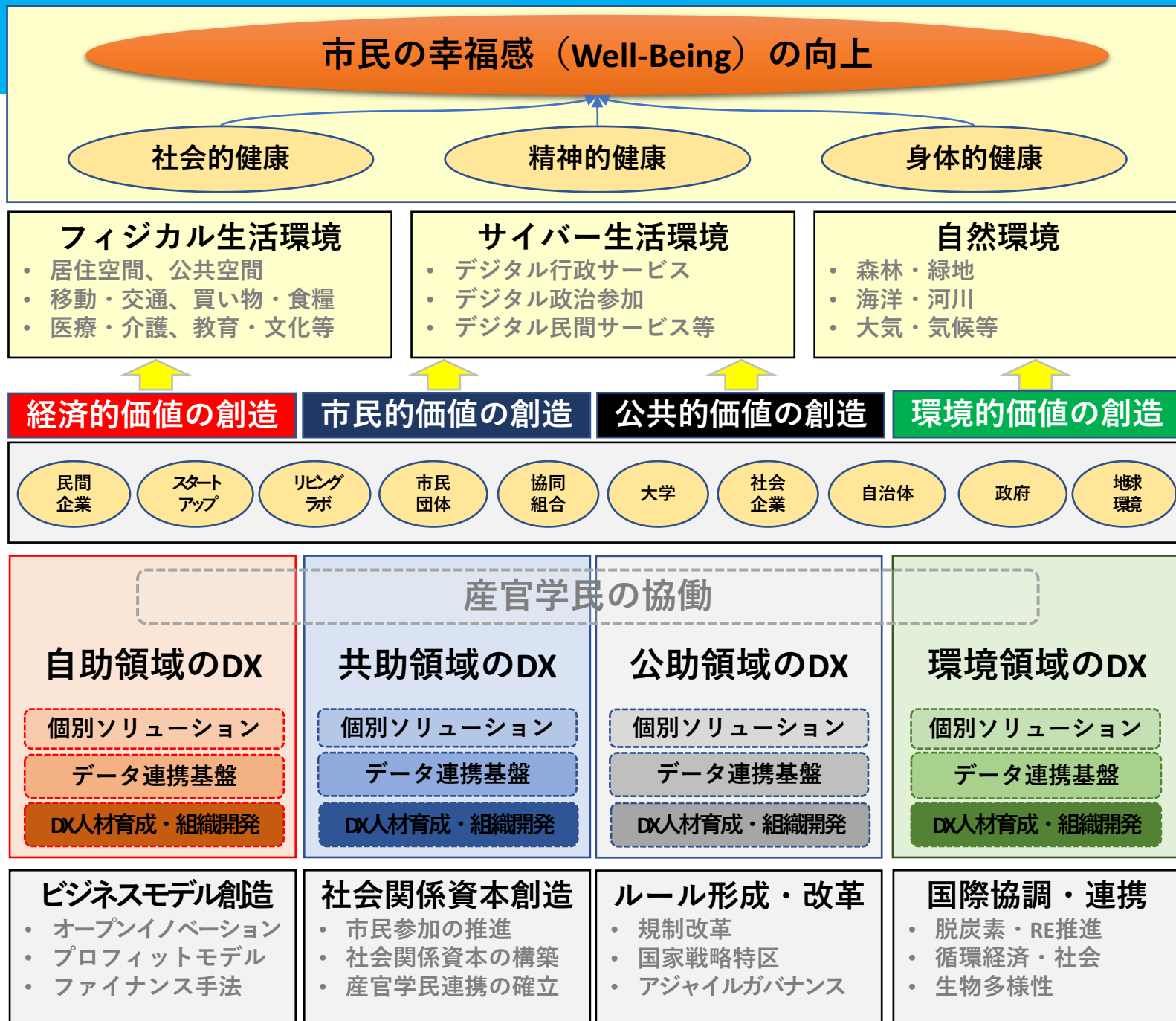
市民の幸福感の視点

生活環境の視点

ステークホルダーの視点

デジタル変革の視点

イネーブラーの視点





- デジタル田園都市国家構想にも見られるように、日本におけるスマートシティに対する考え方は、従来のデジタルテクノロジー主導の議論を越え、地球環境との共生や、人間の本質的な生き方に関する問いへと視点を深めている。
- その中核概念は、GDPやSDGsの枠組みを超えた「Well-Being」の思想。スマートシティ導入が、本当に市民の幸福感や暮らしやすさを向上させたのかを検証するためには、まず、その可視化（測定）が必要。
- 市民のWell-Being向上を最終目的とするまちづくりのためには、鎌倉市民にとって、最も重要なWell-Beingの領域を特定し、そこにデジタルテクノロジー等を活用した向上施策を打つべき。ロジックモデルでこれを構造化し、市の総合計画に統合させることが大切。

- 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート専務理事、一般社団法人オープンガバメント・コンソーシアム理事、三菱UFJリサーチ&コンサルティング専務執行役員。三菱UFJフィナンシャル・グループおよび三菱UFJ銀行の執行役員経営情報統括部、経営企画部、リスク統括部、米州統括部等の各部長を経て現職。地球環境と市民が共存し、誰もが幸福になれるグリーン&デジタルなまちづくりと国づくりに従事。
- 内閣府規制改革推進会議委員、内閣府SIP分野間データ連携プロジェクト有識者会議主査、デジタル庁Well-Being指標委員会委員、同庁デジタル交通社会研究会委員、総務省独立行政法人評価制度委員会委員、世界経済フォーラム第四次産業革命日本センターフェロー、情報処理推進機構デジタルアーキテクチャ・デザインセンター・アドバイザリーボードメンバー、世界銀行シニアアドバイザー等を兼任。
- 東京都、横浜市、鎌倉市、千葉市、浜松市、神戸市、東広島市、会津若松市、前橋市、札幌市等の自治体や民間企業におけるスマートシティ関連委員・アドバイザー等を歴任。
- 京都大学経営管理大学院客員教授、タリン工科大学客員教授、東海大学客員教授、金沢工業大学客員教授、国際大学GLOCOM上席客員研究員、ロイヤルメルボルン工科大学シニア・フェローを兼任。
- 慶応義塾大学法学部卒、ジョージタウン大学経営管理学修士、ロンドン大学開発金融学修士、コロンビア大学プロフェッショナル・フェロー。

## 本資料のご活用に向けて

- 本資料は、信頼できると思われる各種公開情報・オープンデータ等に基づいて作成されていますが、当法人はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に基づくご利用様の決定、行為、及びその結果について、当法人は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、ご利用者様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュートと明記してください。